

3 - 8 関東地方の地殻変動

Crustal Movements in the Kanto District

国土地理院
Geographical Survey Institute

第1図は、南関東・東海地方のGPS連続観測データの精密暦を用いた解析による、1994年9月から1995年9月までの1年間の各観測局の水平変動である。栃木県の佐野を固定している。房総半島から三浦半島・相模平野にかけては、北北西から北西方向に年間1～2cmで移動しており、プレート運動モデルと矛盾しない。しかし、伊豆半島は全域が1～2cmで西へ移動しており、東海地方も同様な運動をしていることから、伊豆半島から西側ではプレート運動モデルとは合わない。また、新島・神津島の運動もフィリピン海プレートの運動とは程遠いものであり、剛体プレートモデルのこの地域への適用が妥当かどうか、検討すべき時期にあると考えられる。伊豆大島、三宅島では島内に变形があることが明らかであり、火山活動との関連からも注意していく必要がある。

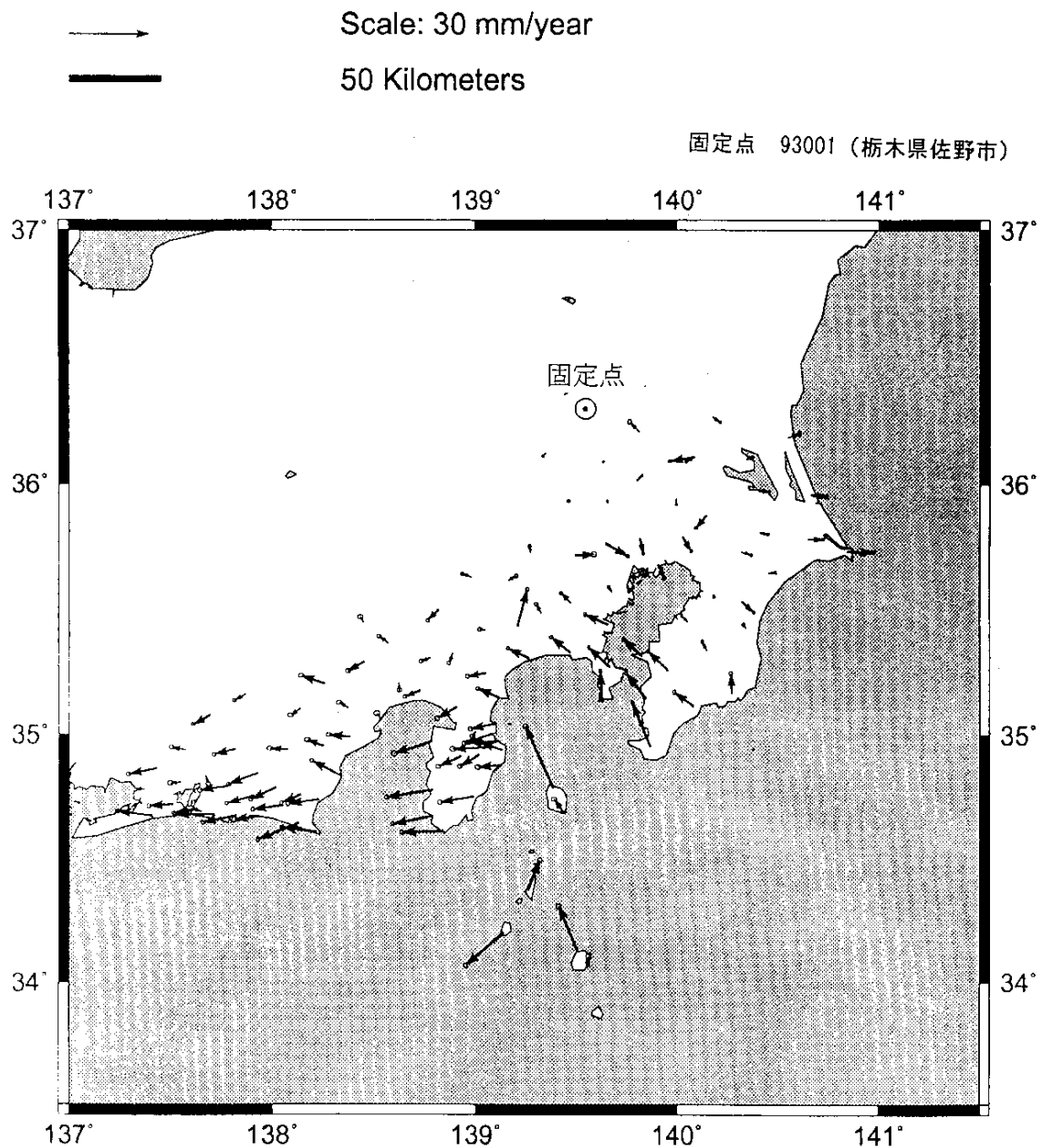
第2図は、熱海～藤沢間の上下変動である。この1年間は、小田原付近の沈降と平塚・茅ヶ崎の隆起が日立つ。第3図は、三島～小田原間の上下変動である。この2年間は、御殿場で約1cmの沈降が見られる他、特に顕著な変動はない。

第4図は、鹿野山における距離の連続観測結果である。1990年頃より各辺とも縮みが顕著であったが、昨年頃からその傾向が鈍化している。

第5図は、布良・勝浦・油壺各験潮場間の月平均潮位差である。特に大きな変動は見られない。

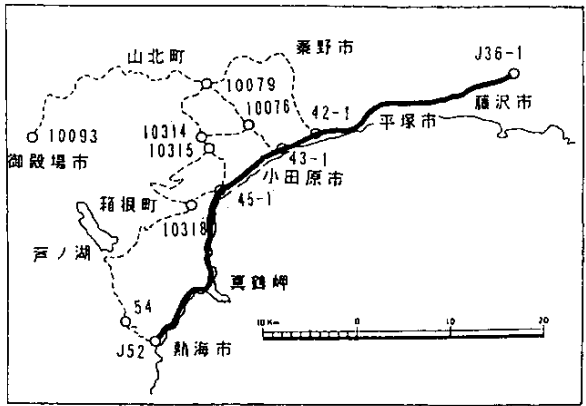
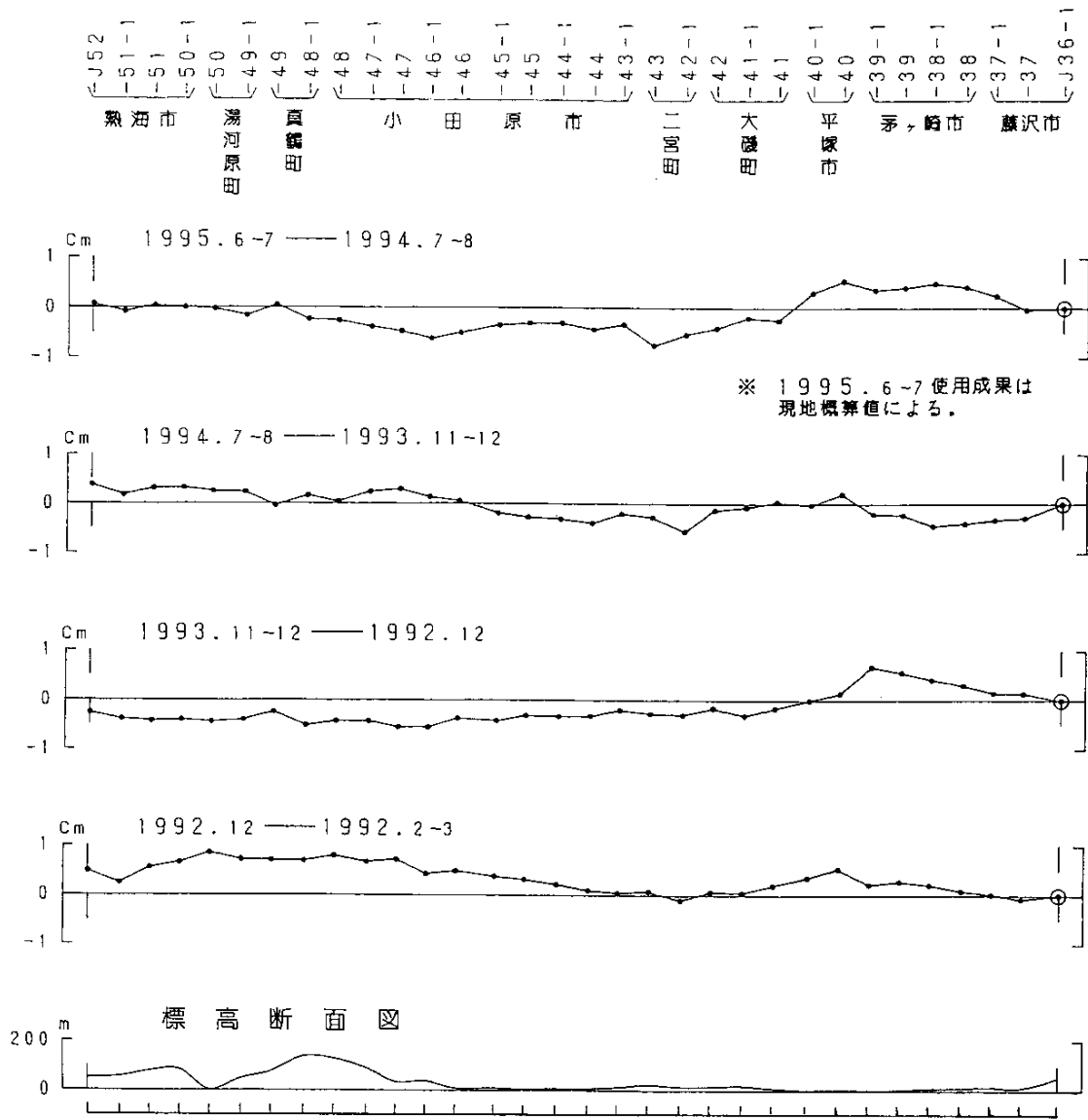
参 考 文 献

- 1) 国土地理院：関東地方の地殻変動，連絡会報，52（1994），150-172
- 2) 国土地理院：関東地方の地殻変動，連絡会報，53（1995），267-277
- 3) 国土地理院：関東地方の地殻変動，連絡会報，54（1995），232-252

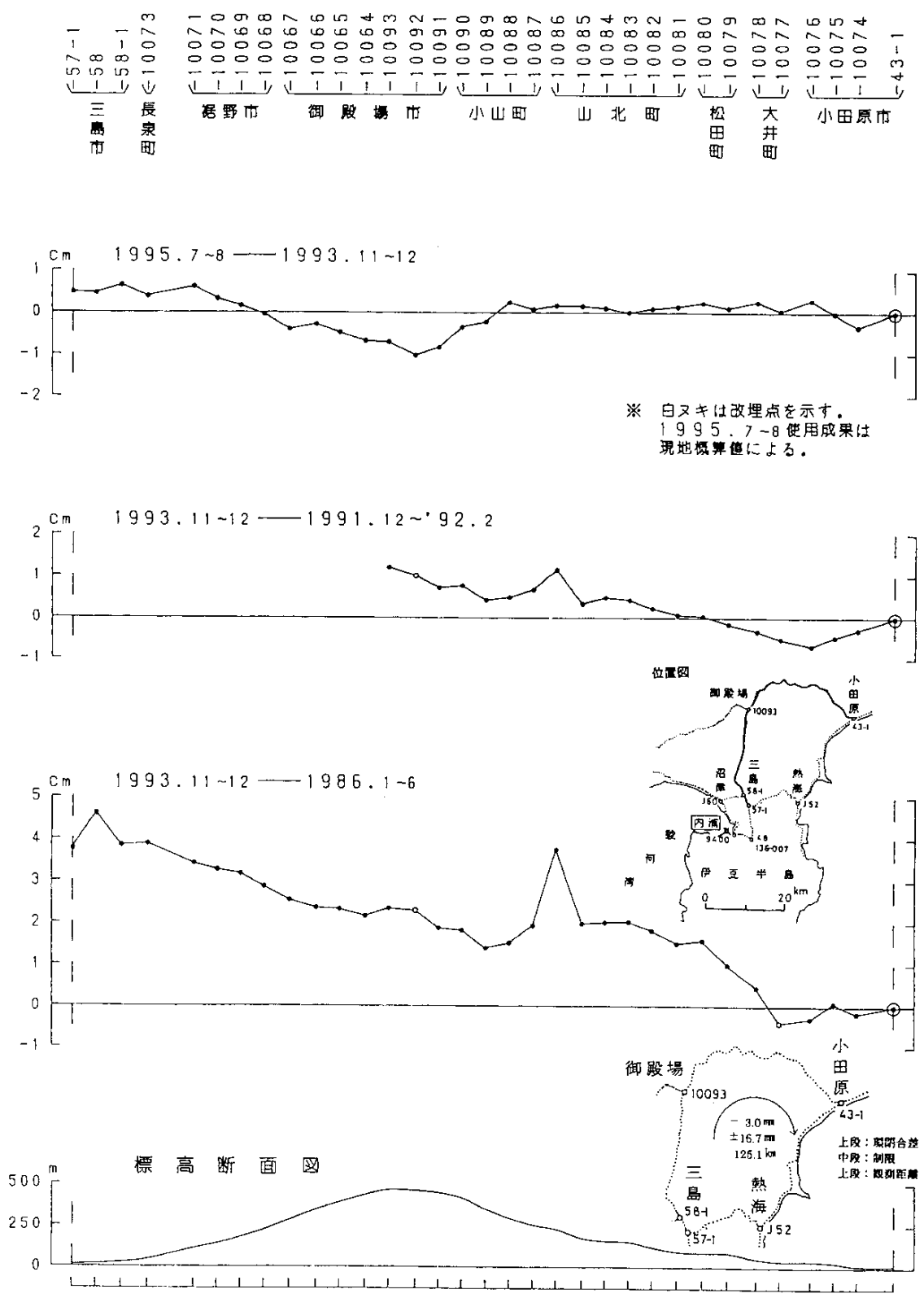


第 1 図 精密暦を用いた解析による南関東・東海地方の GPS 連続観測局の水平変位：1994 年 9 月～1995 年 9 月（栃木県佐野を基準）

Fig. 1 Horizontal vectors of continuous GPS observation stations in the Southern Kanto and Tokai districts by the analysis with precise ephemerides: September, 1994-September, 1995 (w. r. t. Sano, Tochigi)

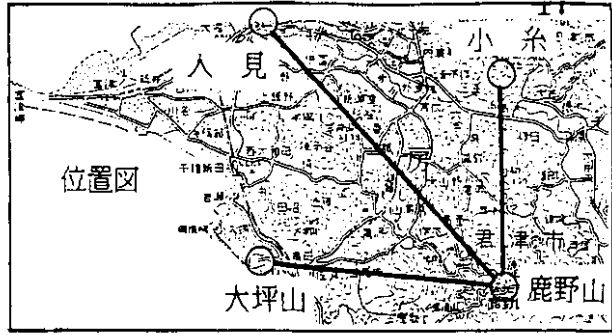


第2図 熱海～藤沢間の上下変動
 Fig.2 Height changes along the route from Atami to Fujisawa.

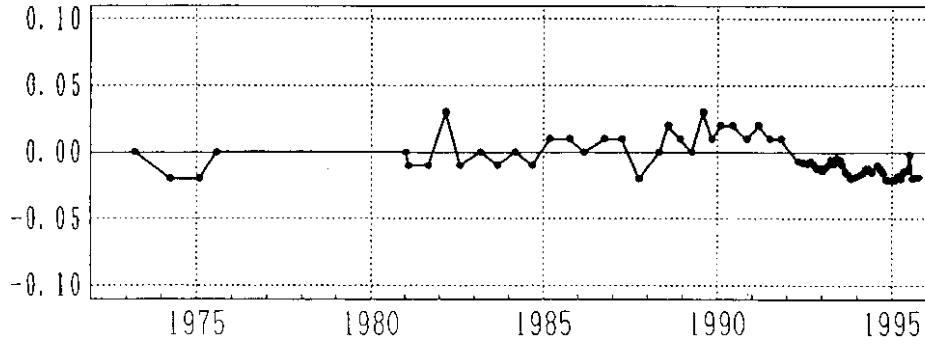


第3図 三島～小田原間の上下変動

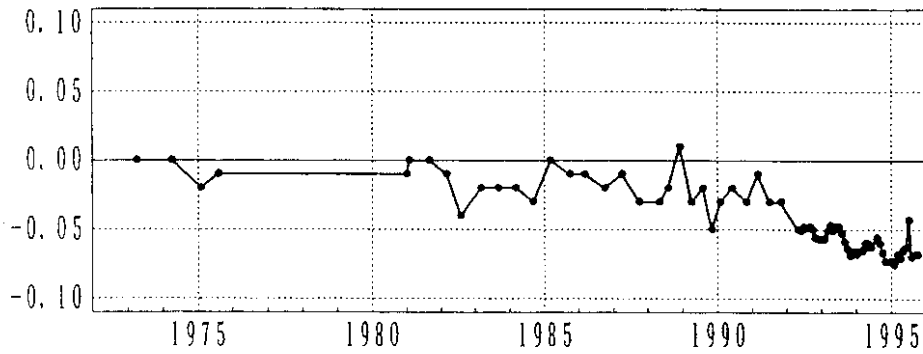
Fig.3 Height changes along the route from Mishima to Odawara.



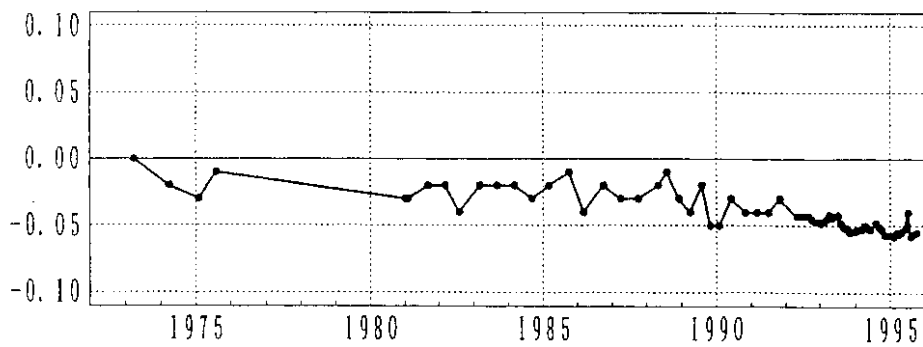
8194.88 m 鹿野山-大坪山



12152.59 m 鹿野山-人見



7032.70m 鹿野山-小糸

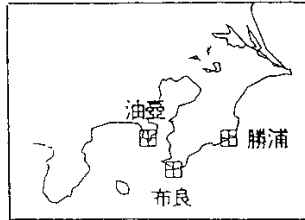
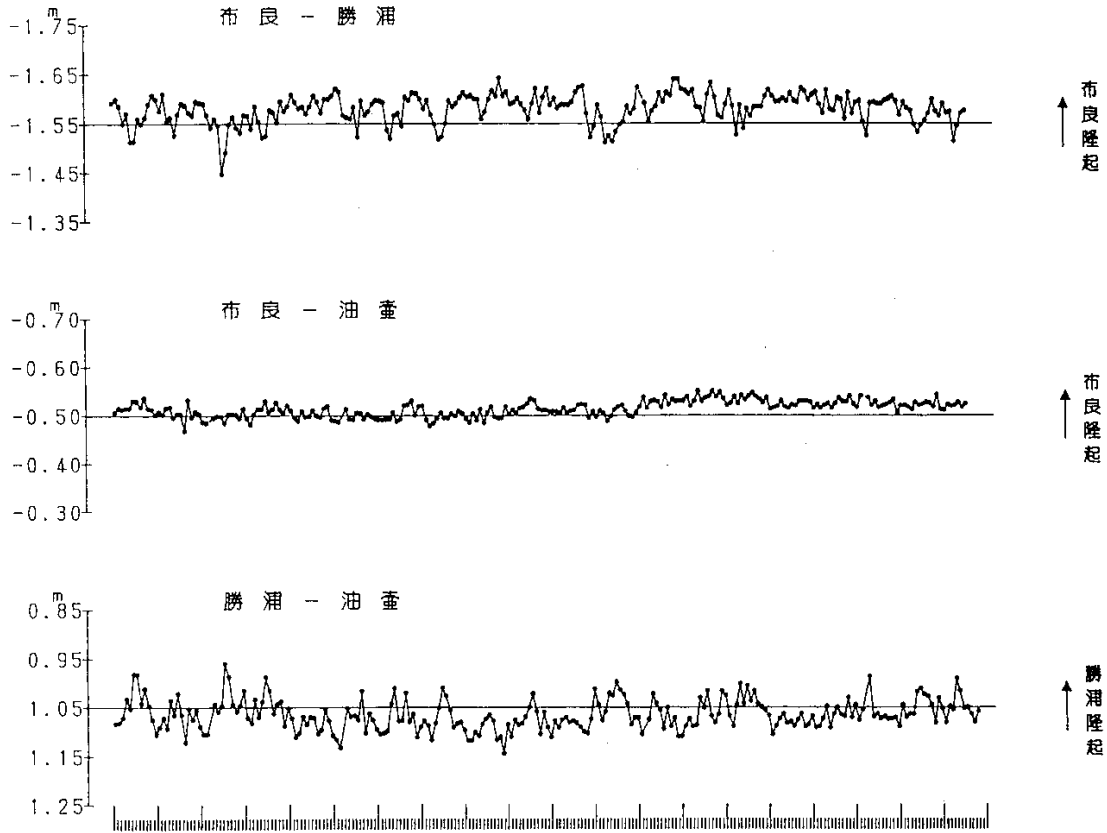


第4図 鹿野山における距離の経年変化

Fig.4 Temporal variation in distances in Kanozan.

76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95

観測終了月：'95年 10月



第5図 布良，油壺，勝浦験潮場間の月平均潮位差

Fig.5 Differences in monthly mean sea levels between Mera, Aburatsubo and Katsuura tide stations.